

## 学生による地域フィールドワーク研究助成「課題研究部門」課題一覧(令和8年度実施分)

No	自治体等名	地域課題名	概要
1	富山県 (交通戦略企画課)	県内公共交通の利用促進について	<p>富山県では、令和6年2月に策定した「富山県地域交通戦略」に基づき、地域の活力・魅力の向上、そしてウェルビーイングの向上をもたらす持続可能で最適な地域交通サービスの実現に向けて取り組んでいる。</p> <p>この戦略では、「県民一人当たりの地域交通利用回数」を年50回に引き上げることや、「地域交通への満足度」を令和5年度比で1.25倍に引き上げることを目標としている。</p> <p>先月開催した富山県地域交通戦略会議鉄道サービス部会等において、委員から、将来の公共交通を支える若い世代(大学生、高校生)に利用してもらったり、考えてもらったりすることが重要との意見をいただいている。</p> <p>このことを踏まえ、県内公共交通の利用促進に向けた効果的な取組みについて、学生の皆さんの視点で研究・提案いただきたいと考えている。</p> <p>(具体例:①MaaSアプリ「my route」上で販売するデジタルきっぷの企画提案、②「富山県地域交通戦略」や「電車・バスで行こう！キャンペーン」の県民への効果的な周知方法の提案 等)</p> <p><b>【特記事項】</b>            -富山県地域交通戦略  <a href="https://www.pref.toyama.jp/documents/26258/05_r060220senryaku_gaiyou.pdf">https://www.pref.toyama.jp/documents/26258/05_r060220senryaku_gaiyou.pdf</a>            -「電車・バスで行こう！キャンペーン」  <a href="https://www.pref.toyama.jp/densha-bus/">https://www.pref.toyama.jp/densha-bus/</a>            -富山my route  <a href="https://toyama-city.myroute.fun/">https://toyama-city.myroute.fun/</a></p>
2	富山市 (商工労政課・企画調整課)	県内大学生の県内就職・定住の促進について	<p>富山市では、若者の市内企業への就職及び中小企業等の円滑な人材確保を図るため、合同企業説明会の開催や、県内外の大学と連携して、富山で働くことの魅力を伝えるイベント等を実施している。</p> <p>富山県の調査によると、県内大学卒業者のうち、県内企業等に就職した割合は44.65%(令和5年度)であり、半数以上の学生は地元に戻って就職するか、首都圏等の県外で就職している。</p> <p>このような若者流出による人口減少は、労働力人口の減少と消費市場の縮小という形で地域経済にマイナスの影響を与えるため、若者の県内就職・定住についての意識醸成を行うことは重要であると考えている。</p> <p>市内には多くの製造業があり、オンリーワン企業などの魅力ある企業も多く存在する。県内外の大学生が県内企業などの魅力を知り、県内での就職、ひいては定住を視野に入れるための効果的な方法について、調査し提案していただきたい。</p> <p><b>【現状を現す指標】</b>            ①県内大学卒業生の県内就職率            44.65% (R5)            ②県内高校出身の県外大学生のUターン就職率            57.9% (R5)            ③若年女性の転出超過(H27～R5の8年間平均)            15～34歳・日本人女性: 136人／年の転出超過</p>
3	富山市 (地域コミュニティ推進課)	町内会の抱える課題(役員のなり手不足・若い世代の参画)	<p>近年、多くの町内会では会長などの役員を担う人材が不足している。住民の高齢化が進み、これまで中心となってきた世代が体力的・時間的に負担を感じて退任する一方で、仕事や家庭との両立の難しさから、20～40代を中心とした若い世代の町内会活動への参加率が低下している。</p> <p>また、町内会活動そのものが若い世代にとって縁遠いものになっているケースも多い。そのため、世代間の交流が進まず、地域活動の継承が難しくなっている。若い世代の参画不足は、町内会の活力低下・新しいアイデアの停滞につながり、長期的には地域コミュニティの弱体化を招く恐れがある。</p>
4	高岡市 (脱炭素推進課)	脱炭素社会の実現に向けた市民の意識改革及び行動変容	<p>本市は令和5年11月に「脱炭素先行地域(脱炭素を先駆けて実施するモデル自治体)」に選定され、高岡市中心市街地と福岡金属工業団地において、2030年カーボンニュートラルの達成に向けて短期集中的に取組を行っているところ。</p> <p>脱炭素の取組を実施するにあたり、これまで説明会やイベント等でデコ活※への意識改革を行ってきた。しかしながら、環境問題は課題の規模等が大きいため、緊急性や重要性が伝わりにくく、デコ活に一步踏み出してもらうことができず、具体的な成果や行動変容に結びついていない状況である。</p> <p>先行地域に居住する方へ、デコ活に対する意識や障壁、要望等を聞き取り、市民の意識醸成や行動変容を促すためにどのような取組が有効であるのかを提案していただきたい。</p> <p>※脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動。</p>